

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第2号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第2号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R7 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R7 (hr)	平年比 (%)
5月	1	17.6	16.8	-0.8	23.8	23.3	-0.5	12.0	11.0	-1.0	27.2	29.5	108.5	30.9	42.3	136.9
	2	18.3	17.5	-0.8	24.5	22.2	-2.3	12.8	13.6	0.8	29.3	118.5	404.4	30.5	26.7	87.5
	3	18.8	18.4	-0.4	25.0	24.1	-0.9	13.3	12.6	-0.7	29.9	0.0	0.0	30.5	39.2	128.5
	4	19.5	21.8	2.3	25.7	25.6	-0.1	14.0	18.0	4.0	25.1	20.0	79.7	30.7	8.0	26.1
	5	20.2	19.9	-0.3	26.5	24.0	-2.5	14.7	16.9	2.2	19.6	132.5	676.0	30.6	14.6	47.7
	6	20.9		-20.9	27.1		-27.1	15.6		-15.6	22.6		0.0	34.5		0.0

○5月4半旬の平均気温は平年より0.3℃低く、最高気温は2.5℃低く、最低気温は2.2℃高くなった。日照時間は平年比47.7と少ない。降雨量は平年比676と多くなった。

2. 水稲情報田の生育状況（調査日：5月29日）

項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 葉数L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ	本年値	55.5	674	10.5	44.5	・草丈は平年比106で平年より高い。茎数は平年比109で多い。 (1株あたり茎数41本程度) ・主稈葉数は、平年より0.2葉少ない。 ・葉色は平年より濃い。 ・第5節間伸長始期頃
	前年値	53.8	632	10.2	43.0	
	平年値	52.4	620	10.7	42.1	
	平年比(差)	106	109	-0.2	+2.4	

※ 平年値は、H27～R6年度の平均値、栽植密度16.5株/m²

(管内の生育状況)

○現在の生育ステージは、穂首分化期～最高分けつ期頃である。

3. 今後の管理

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は、まもなく幼穂形成始期を迎える。
幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行うと根を傷める場合もあるので、間断灌水を行う。
- ・現在、土壌が柔らかく、中干しを実施できていない圃場は、速やかに実施する。
葉色が濃い圃場では、強めの中干しを実施し、葉色の低下を促すとともに地耐力をつける。

中干し後も土壌が柔らかい圃場では間断灌水時に落水期間を長くとりながら、土壌を固めていく。土壌の硬さは「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける程度」が理想である。

(2) 肥培管理

- 情報田の生育状況から判断すると、現在、出穂前32日頃と推定される。
- 穂肥施用の目安は、幼穂長 15mmの時（出穂前18日頃）に SPAD 値が 36.0~39.5 程度（群落葉色が 3.3~3.7）まで低下したら、ゴールド有機 50 を 10kg/10a 施用する。
必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し下記の穂肥診断基準を参考にする。
ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量を減ずる。

表1 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0~3日	3~6日	6~8日	8~11日	11~14日
幼穂長 (mm)	1mm	1~3mm	8~12mm	15~20mm	25~30mm	30mm以上
草丈 (cm)	~72cm	~75cm	~78cm	~80cm	~83cm	~
穂肥の施用時期				←→		

例) 幼穂長 15~20mm の時（出穂前 18 日頃）が穂肥施用時期であるため、穂肥診断した時の 幼穂長が 1mm の場合、その 5 日後に穂肥を施用する。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を下の穂肥を診断基準に当てはめ、施用量を確認する。
- ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.5以下）」になってからである。

表2 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD (値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	施用量 <ゴールド有機 50>
		群落	単葉				
穂肥施用時	淡い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15Kg/10a
		3.0~3.3	3.5~3.8	34.0~36.0	5	78まで	
	標準	3.3~3.7	3.8~4.2	36.0~39.5	15	80まで	10Kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	—	80以上	施用しない

例) 穂肥施用時期の 葉色 (SPAD) が 36.0~39.5、草丈が 80cm 以下であれば、ゴールド有機 50 を 10kg/10a 施用する。

※セタコシヒカリは 佐賀県特別栽培農産物表示制度に応じた栽培方法を行っておりますので、農薬及び化学肥料のカウント数を超えないように留意する。

(3) 病虫害防除

① いもち病

- ・ 補植用の『置き苗』は、葉いもちの発生源になるため、すぐに除去する。

② 斑点米カメムシ

- ・ 斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を水稻の出穂 15 日前までに終わらせる。

令和7年産 作物作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

